

平成19年10月18日作成

## H19 専門部会の取り組み状況

部 会 名	森づくり部会	担	課、担当(グループ)名 森林整備課
部 会 長	岐阜県森林組合連合会 三島喜八郎	当	間伐担当
構 成 員 (所属名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岐阜県森林組合連合会 代表理事副会長 三島喜八郎 (部会長)</li> <li>・極東森林開発株式会社 代表取締役 中原 丈夫 (副部会長)</li> <li>・岐阜大学教授 篠田 成郎</li> <li>・岐阜県自然共生工法研究会 理事 清水 佳子</li> <li>・加子母森林組合 代表理事専務 内木 篤志</li> </ul>		
平成 19 年 度 計 画	1	H19年度検討事項 基本計画の中の「健全で豊かな森林づくりの推進」の実現に向けた課題や 具体的取り組みに関して検討する。	
	2	検討事項の具体的取組み 未整備森林対策として、森林所有者への働きかけや公的森林整備の具体的 取組みについて検討する。	
実 施 状 況	3	<p>取組み状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未整備森林対策について、2回に渡り各委員から意見を提案いただき協議した。</li> <li>第1回(平成19年7月26日)</li> <li>第2回(平成19年8月27日)</li> <li>・内容(主な意見) <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林の「整備」と「管理」は異なる。市町村、森林組合が「管理」について検討していく必要がある。</li> <li>・市町村森林管理委員会の共通課題として、未整備森林対策を検討していただくとうい。</li> <li>・未整備森林のまま放置している森林所有者の責務を問わなければ、補助金を使うことに対する県民の理解は得られない。</li> <li>・市町村が主体となって、必要に応じて施業の勧告を行う必要がある。</li> <li>・森林組合にもブレンが必要であり、外部からの人的支援も検討し、森林組合自体もビジョンを構築する必要がある。</li> <li>・山をファンドとして考え、伐った収入で保育費を賄う新しい制度が必要。</li> </ul> </li> </ul>	
	4	<p>今後の取組み</p> <p>未整備森林対策として森林所有者へ働きかけを行っている事例報告をもとに、今後の具体的な対策を協議する。</p>	

## H19 専門部会の取り組み状況

部会名	木づかい部会	担	課、担当(グループ)名 県産材流通課 県産材流通担当								
部会長	岐阜県立森林文化アカデミー教授 三澤文子	当									
構成員 (所属名)	〔委員〕 行灯工房代表 入江鐵夫 岐阜県立森林文化アカデミー教授 三澤文子 NPO法人グッドライフ・サポートセンター理事長 村瀬美代子 日本木材青荘年団体連合会平成16年度会長 山田貴敏 (委員のほか、製材関係4名、建築関係3名、建築士関係1名、企画会社関係1名、消費者代表1名、マスコミ関係1名、製品流通関係1名がアドバイザーとして会議に参加している。)										
平成19年度計画	1 H19年度検討事項、2 検討事項の具体的な取り組み 県産材流通総合戦略に基づき、木材生産から消費に至る各種の新たな戦略を具現化していくこととしている。 <table border="1" data-bbox="295 817 1348 1176"> <thead> <tr> <th>検討項目</th> <th>主要な戦略の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木材生産</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>安定供給のための素材生産団地の設定</li> <li>全幹集材による搬出利用率の向上</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>流通・加工</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>新生産システムによる流通の合理化</li> <li>素材等級に合わせた多様な用途利用</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>販売・消費</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>消費マインドを高めるためのPR戦略の強化</li> <li>スギ製品の生産拡大と新たな利用先の開拓</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>			検討項目	主要な戦略の内容	木材生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>安定供給のための素材生産団地の設定</li> <li>全幹集材による搬出利用率の向上</li> </ul>	流通・加工	<ul style="list-style-type: none"> <li>新生産システムによる流通の合理化</li> <li>素材等級に合わせた多様な用途利用</li> </ul>	販売・消費	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費マインドを高めるためのPR戦略の強化</li> <li>スギ製品の生産拡大と新たな利用先の開拓</li> </ul>
検討項目	主要な戦略の内容										
木材生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>安定供給のための素材生産団地の設定</li> <li>全幹集材による搬出利用率の向上</li> </ul>										
流通・加工	<ul style="list-style-type: none"> <li>新生産システムによる流通の合理化</li> <li>素材等級に合わせた多様な用途利用</li> </ul>										
販売・消費	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費マインドを高めるためのPR戦略の強化</li> <li>スギ製品の生産拡大と新たな利用先の開拓</li> </ul>										
実施状況	3 取り組み状況 第1回(平成19年6月21日)内容(主な意見) <ul style="list-style-type: none"> <li>「ぎふ証明材」認証システムと補助金のインパクトの2つで、県産材住宅の普及を進めていく。</li> <li>工務店の段階で県産材使用の可能性が途切れてしまわないよう、消費者及び工務店への啓発を進める。</li> <li>木づかい読本は、子どもの興味をひくよう配慮して作成する。</li> <li>ぎふ証明材製品登録制度の創設を検討する。</li> </ul> 第2回(平成19年10月11日)内容(主な意見) <ul style="list-style-type: none"> <li>県産材住宅の建築戸数について、計画達成を目指して啓発を行うとともに、状況に合わせて補助要件についても見直しを行っていく。</li> <li>建築基準法の改正等により構造に対する要求が高まっていくことが予想されるので、県産材の品質明示に向けて準備を進める。</li> <li>消費者に木の良さを認識してもらうため、森林の木材を見てもらうバスツアーも有効である。</li> <li>県産材を使った住宅に対して、金融機関の住宅ローン金利低減制度創設を働きかける。</li> <li>県産材を活用した玩具開発については、広葉樹にとらわれず、針葉樹を含めて検討する。</li> </ul>										
	4 今後の取り組み 2月頃に、第3回木づかい部会を開催予定 「20年度の木づかい運動施策の推進方法について」										

## H19 専門部会の取り組み状況

部会名	普及・教育部会	担当	課、担当(グループ)名 林政課 緑化運動担当
部会長	森のなりわい研究所 代表 伊藤栄一		
構成員 (所属名)	〔委員〕 森のなりわい研究所 代表 伊藤 栄一 (部会長) 岐阜県生活学校連絡協議会 会長 金山富士子 (副部会長) 生涯学習コーディネーター 内田 晴代 NPO法人 杉の杜学舎 代表 鈴木 章 岐阜県小中学校女性校長会 会長 辻 壽子		
平成19年度計画	1 H19年度検討事項 森林環境教育をはじめとした普及・教育の推進方策について		
	2 検討事項の具体的取組み 昨年度、開催した2回の会議を通じて委員から意見、提言のあった下記内容を主体とし、森林環境教育を進める上で具体的に取り組みべき事項を検討する。 森林環境教育をはじめとした普及・教育の推進方策について ・森林環境教育の指針・企画(案)の検討 指針の策定〔指針(案)に対する意見・提言〕 ・基本計画の着実な実行のためのアクションプランの検討		
実施状況	3 取組み状況 第1回(平成19年7月2日) 森林環境教育指針の作成に向けて、指針(案)を提示し議論した。 (主な意見) ・学校に負担のかからない仕組みをどのように作っていくかが重要。 ・都市部では森林環境ではなく、水環境から入った方が分かりやすい。 ・学校という場で、地域の人に参加して行える仕組みづくりが重要。 ・森林環境教育を推進することは重要であるが、地域性があるので、地域の特色を活かした森林環境教育を実施すべき。 ・企画・立案できるコーディネーターを育成することが重要。 木づかい読本の案を提示し、議論した。 (主な意見) ・もっと山とのつながりが具体的に分かる内容とする必要有り。 ・木を伐ることに対する罪悪感を取り除くような内容とすべき。 第2回(平成19年9月27日) 森林環境教育指針の今後の取扱い等について、議論した。 (主な意見) ・学校に負担が重くならない指針を行政で作成し、学校へ配布するのが良い。 ・表現については教育委員会としっかりと調整して行く必要有り。 ・森林環境教育の場合、教育者は学校の先生だけにしぼる必要はない。地域の人を積極的に活用する。 平成20年度の森林環境教育関係事業の実施方針について説明した。 ・ぎふ森林づくりサポートセンターの位置づけをもっと明確にすべき。 ・NPOセンター等とのネットワークづくりが重要。 ・コーディネーターの育成が必要。地域の人との連携を強化する必要有り。		
	4 今後の取組み ・森林環境教育指針は教育委員会と調整を行い、2月を目処に作成し、今年度中に各学校へ配布する予定。 ・ぎふ森林づくりサポートセンターは情報の集約・発信拠点として役割を明確化する。 ・コーディネーター、指導者の掘り起こし等を行い、要望に対応できる体制づくりを行う。		

# ○平成19年度 木の国・山の国1000人委員会開催状況

## 1 「森の健康診断セミナー」の開催

森林の機能、森林の状態の把握や森林づくり施策の実施状況の評価の手助けとなる森林・林業に関するセミナーを開催

対 象：木の国・山の国1000人委員会委員（希望者）他

内 容：各地域の森林状態の評価に必要な森林の機能や森林施業等森林・林業に関する知識と森林の状態の簡易な判断方法等の習得を目指すセミナーを開催。

〈第1回〉平成19年10月17日（水）

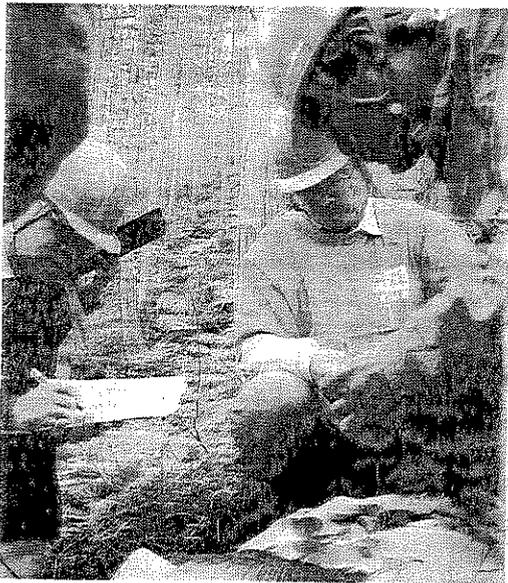
場 所：講義 ウッドフォーラム飛騨

実技 高山市有林（高山市清見町夏厩地内）

参加者：30名（事務局含）

### 樹木の密度や植生調査

高山市で市民ら森の豊かさ実感  
セミナー



森林の植生を調べる参加者—高山市  
清見町夏厩

人工林の調査を通して、市民らが健全な森林づくりを考える県主催「森の健康診断セミナー」が十七日、高山市清見町三日町のウッドフォーラム飛騨などで開かれた。一般県民や県内の林業関係者らでつくる「木の国・山の国1000人委員会」のメンバー約三十人が参加。これまでは林業行政関係者を対象としてきたが、一般向けは今回が初めて。

全国に先駆けて市民による調査を始めた名古屋市のボランティア団体のメンバーを講師に、目的や手順を学習。その後、同町内の林齢八十年の市有林で実地調査を体験。参加者らは手作りの樹高計測器のほか、釣りざおなど身近な道具を使って樹木の密度や植生、土の状態などを調査し、手入れされた森林の豊かさを実感していた。

関係者らでつくる「木の国・山の国1000人委員会」のメンバー約三十人が参加。これまでは林業行政関係者を対象としてきたが、一般向けは今回が初めて。

全国に先駆けて市民による調査を始めた名古屋市のボランティア団体のメンバーを講師に、目的や手順を学習。その後、同町内の林齢八十年の市有林で実地調査を体験。参加者らは手作りの樹高計測器のほか、釣りざおなど身近な道具を使って樹木の密度や植生、土の状態などを調査し、手入れされた森林の豊かさを実感していた。

10月18日  
岐阜新聞

〈第2回〉平成19年11月 4日（水）

場 所：美濃市内

募集人員：50名

## 2 「木の国・山の国の森林づくり」意見交換機会の開催

- ・木の国・山の国1000人委員会委員と知事との意見交換会を実施  
対 象：木の国・山の国1000人委員会委員（希望者）  
日 時：平成19年8月8日（水）10：00～12：00  
場 所：岐阜県立森林文化アカデミー（美濃市）  
参加者：木の国・山の国1000人委員会委員 42名  
古田知事、渡辺林政部長、森林政部次長、  
熊崎森林文化アカデミー学長、藤沢森林文化アカデミー副学長、  
前田森林研究所長、部内各課長



## 3 県の森林・林業施策の積極的な情報発信と委員の意見交換の場の設定

県の森林づくりに関する情報提供

- ・「森林のたより」により毎月、岐阜県内の森林・林業関係ニュースを紹介。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/s11511/ringyou/index.htm>

- ・ぎふ森林づくりサポートセンターメールマガジン、センター便り

<http://gifu-mori.net/>

委員相互の情報交換の場を設置

- ・ぎふ森林づくりサポートセンターホームページ内に木の国・山の国1000人委員会委員が情報交換を行うことができるグループウェア（ ）を設置

アドレス：<http://gifu-mori.net/1000hm/topics.cgi>

IDは gifu-mori パスワードは 1000

コンピュータネットワークを利用して、複数の人間からなるグループでの情報共有、およびそれらの相互作用を円滑化するソフトウェアの総称。